

7. 河 川 別 の ま と め

河川別に下記の項目をまとめました。

① 河川の11年間の状況をマップの5段階の推移を表しています。（左上）

■ 印の河口水質と、▨ 印の上流を含む全ての平均値を表しています。

■ はその範囲を推移、↓ 良化、↑ 悪化を示しています。

② 河口の値をグラフ化しています。 河口11年推移（左上2段目）

③ 河口の彦根市が測定される値をグラフ化しています。 彦根市の環境年次報告書（左上3段目）

参考に記載させて頂きました。測定方法等違いますので、グラフの変化を見てください。

年間測定回数 2009~2011年=12回 2012年=4回 2013,2016,2017年=7回 2014,2015年=9回 2018年=4回

④ 河川全体の平均値をグラフ化しています。 河川11年推移（左上4段目）

⑤ 河川の水系（本流に流れ込む支流、合流点の位置を示す）を図にしました。（右上）

●は調査地点で白抜きの数値は2019のCOD値、横にNo・地点名を記しました。

⑥ 河川全体の2017年値を月別にグラフ化しています。 2017年月別推移（左上5段目）

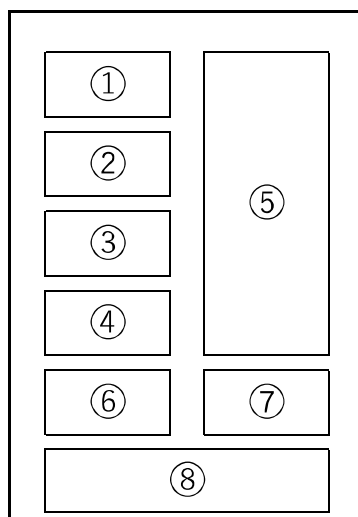
⑦ 河川全体の2018年値を月別にグラフ化しています。 2018年月別推移（右2段目）

⑧ 河川の概要（歴史、位置、地勢、役割、特徴等）、一部の地点について特徴をコメントしました。

河川の全長記載は、文献よりの引用と、マップにて計測したものが混在しています。

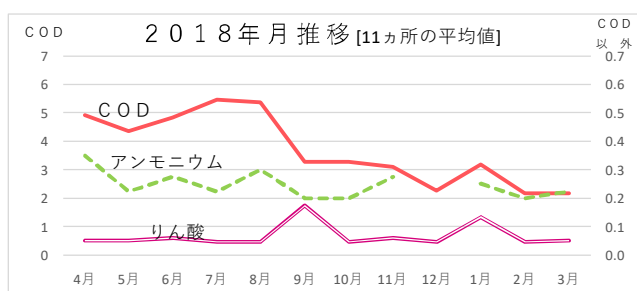
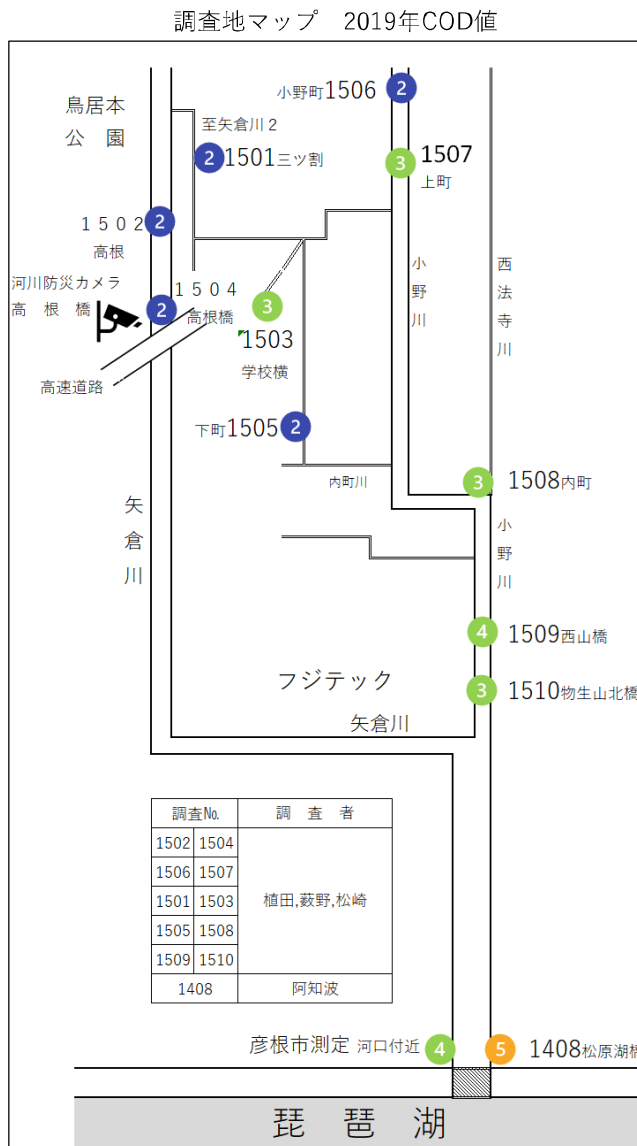
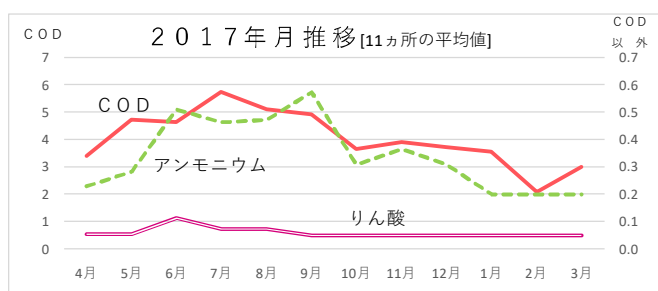
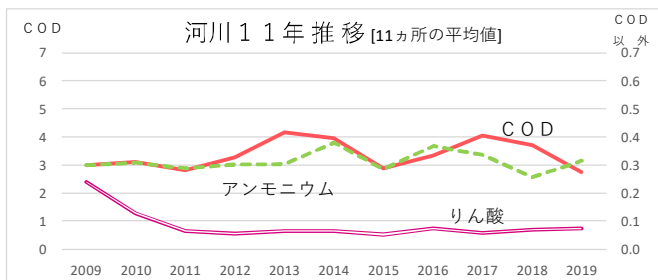
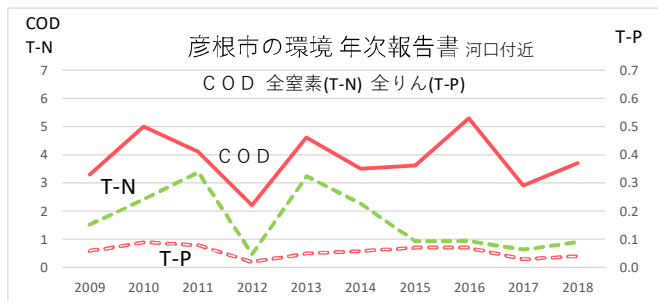
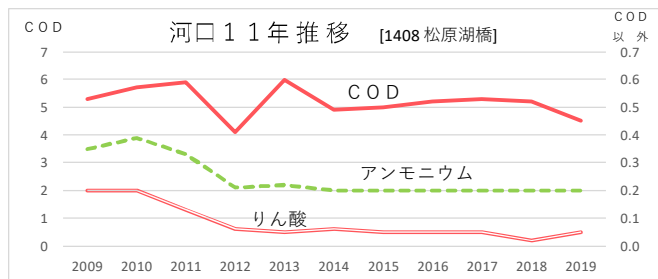
（下）

掲載位置



(1) 矢 倉 川

河口付近		と 11カ所の平均	
範 囲(mg/l)	COD	範 囲(mg/l)	アンモニウム リン酸
汚い	8以上	2以上	
5~8未満		1~2未満	
3~5未満		0.4~1未満	
2~3未満		0.2~0.4未満	
きれい	2未満	0.2未満	



矢 倉 川 全長約 7.7 km

矢倉の地名の由来は、佐和山城の櫓があったから、聖徳太子と物部守屋が戦った際に櫓が築かれたからとも言われている。旧中山道摺針峠の東側に発し、中山川・荘厳寺川・寒谷川を集め鳥居本町に出、物生山の北を通り、磯山の南方で琵琶湖に流入する。全長約 7.5 km かつては、米原駅の西方に約 250 ha の入江内湖があり、矢倉川は北に流れ甲田町の西北方で入江湖に流入。昭和 19 年以降直接琵琶湖に導く為開削され、支流小野川と合流させ物生山北方を通る湾口まで約 2.5 km がこれに当たる。工事初期、豪雨のあと洪水が南の松原内湖干拓地に湛水し、被害を与え、河道の拡幅改修された。

小野川(小野町付近)・矢倉川上流には、寒谷川・荘厳寺川(荘厳寺町付近)・中山川(中山町付近)・中山西川(キドラ川)他三ツ割 調査地点 1501 では、鳥居本公園付近で矢倉川より分流し三等分する為に三ツ割される珍しい場所です。

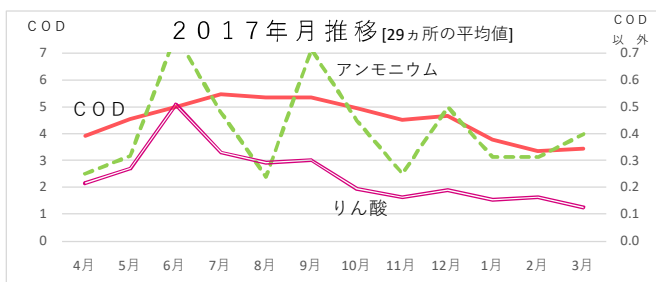
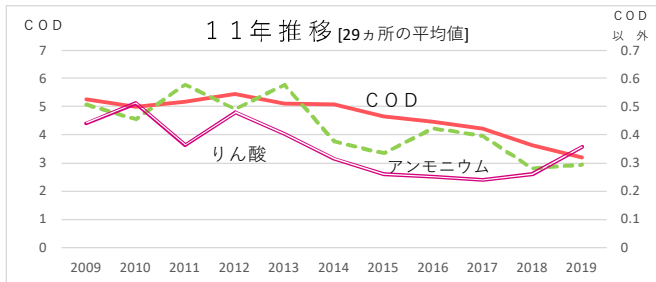
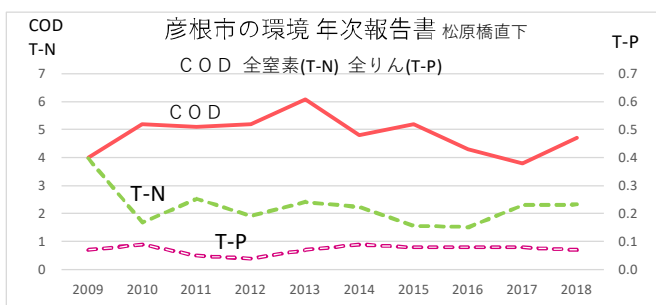
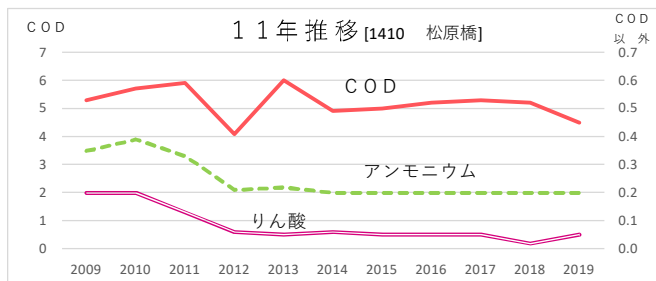
ライブカメラ映像配信

矢倉川の高根橋を映したLIVE生中継です。5 分ごとの河川状況を確認するカメラです。滋賀県土木交通部提供

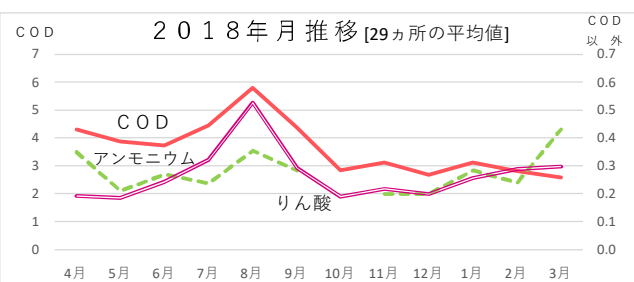
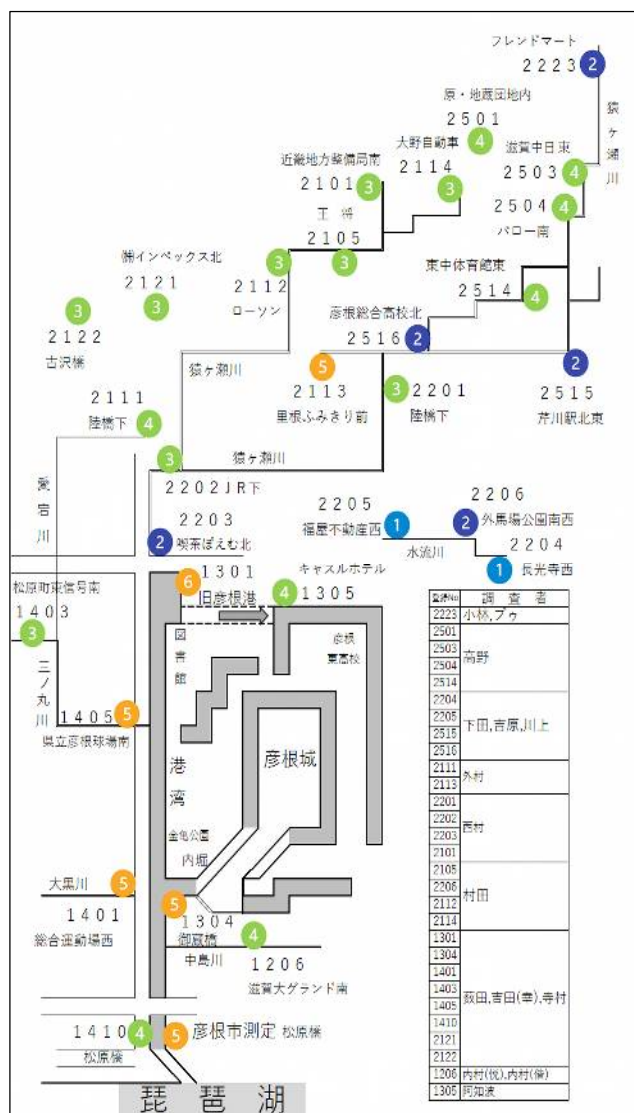
(2) 港 湾

河口付近 と 29カ所の平均

	範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
汚い	8以上		2以上		
	5~8未満		1~2未満		
	3~5未満		0.4~1未満		
	2~3未満		0.2~0.4未満		
きれい	2未満		0.2未満		



調査地マップ 2019年COD値



港 湾 全長約 1.5 km

現在の彦根港（松原町）が1969年に開港され、大型船舶の就航が無くなりました。バス釣り客が多く来られています。

彦根城の堀 全長内堀約 2.1 km、外堀約 2.5 km

お堀の水の浄化のために港湾の水をくみ上げて、いろは松付近に25,000トン／日放出されています。

猿ヶ瀬川（さるがせがわ） 全長約 4 km

芹川のつけかえで「猿尾」地名と「猿ヶ瀬川」が出てました。猿尾堤＝木曾川で築かれた堤防の一種で 洪水の際、水勢を弱め本堤防の決壊を防ぐ施設です。

関連河川 大黒川・三ノ丸川（大洞川）・愛宕川（あたごがわ）・大雲寺川・水流川・中島川・小松原川

東北部浄化センター

[基準値]

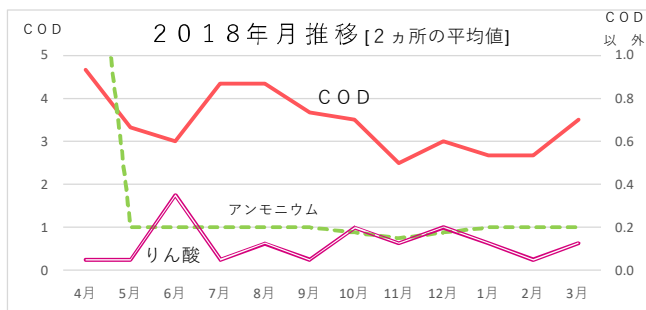
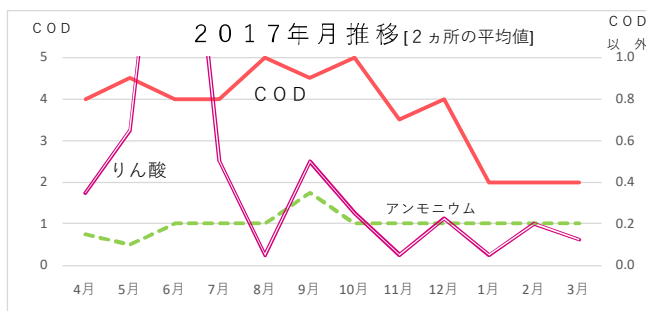
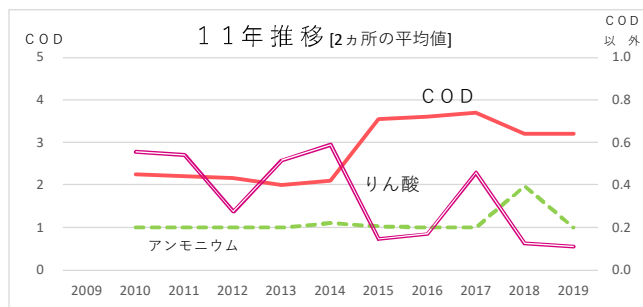
下水処理水が水量(日最大)約 12万m³/日が旧彦根港に放流。 水質 COD: 5 [20] T-N: 2.5 [5] T-P: 0.07 [0.25] (2018年)

(3) 昭和下水(水路[長曾根])・中荻川(水路[芹川北])

昭和下水

2カ所の平均

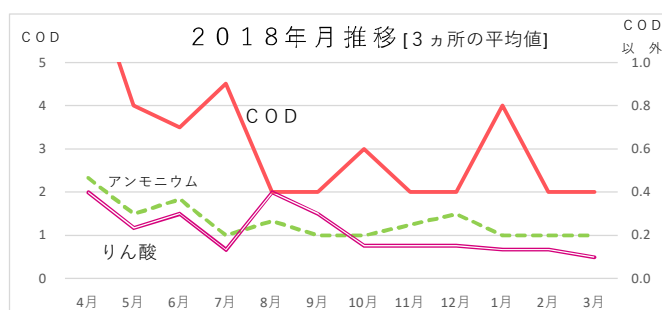
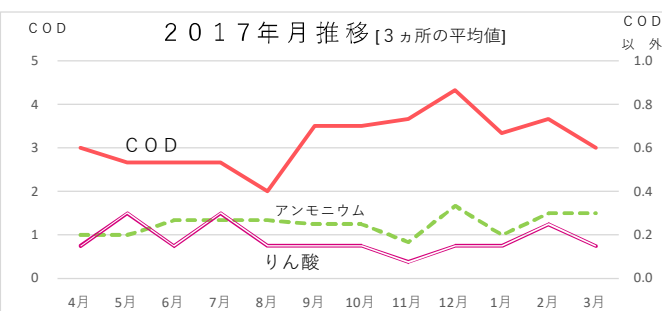
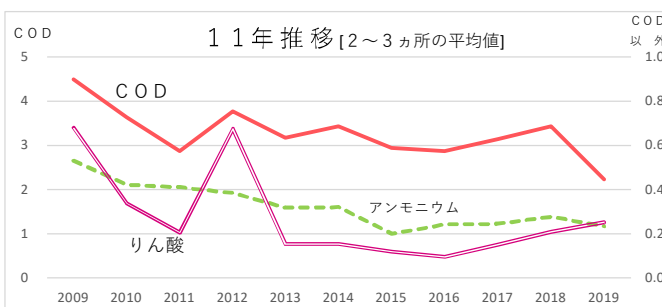
	範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
汚い	8以上		2以上		
	5~8未満		1~2未満		
	3~5未満		0.4~1未満		
	2~3未満	↑	0.2~0.4未満	■	↓
きれい	2未満		0.2未満		



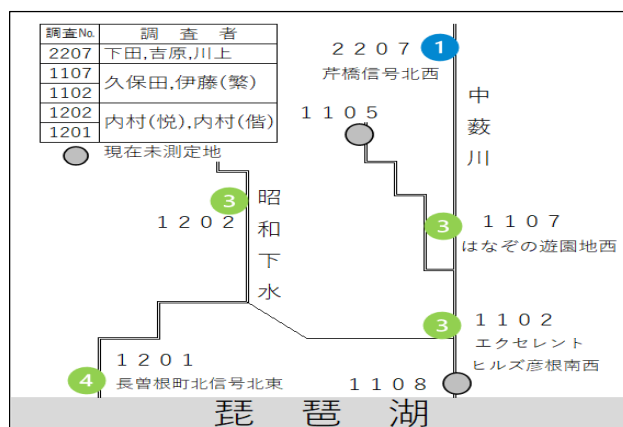
中荻川

2~3カ所の平均

	範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
汚い	8以上		2以上		
	5~8未満		1~2未満		
	3~5未満	↓	0.4~1未満		↓
	2~3未満	↓	0.2~0.4未満	↓	↓
きれい	2未満		0.2未満		



調査地マップ 2019年COD値



昭和下水(水路[長曾根]) 全長約0.8km

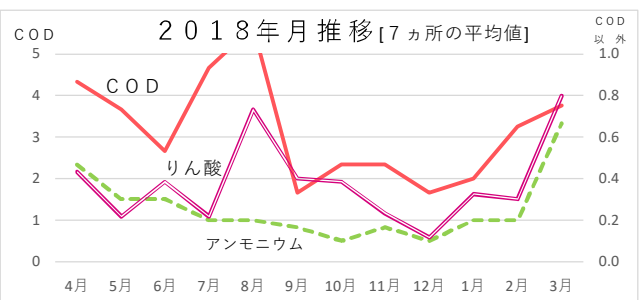
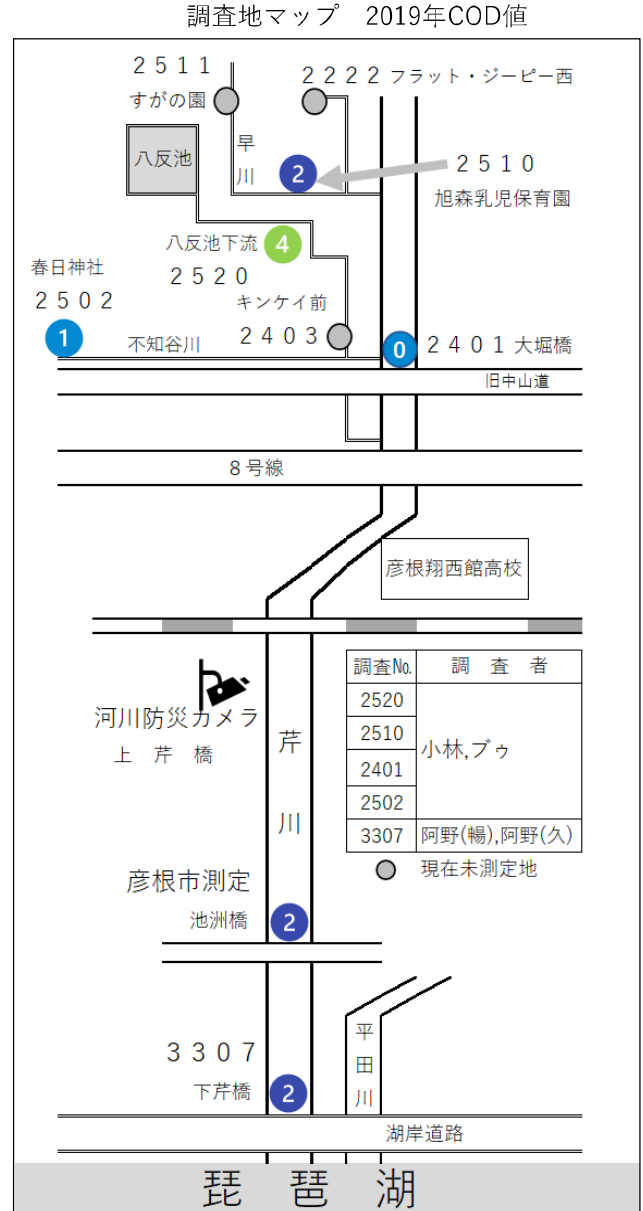
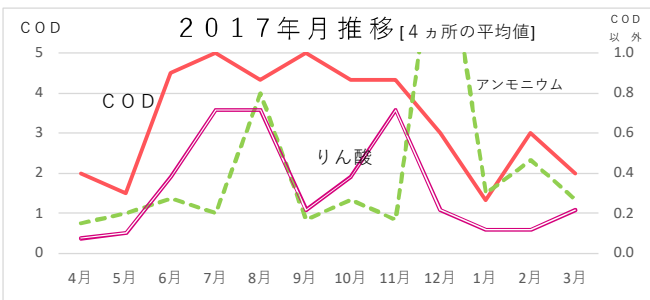
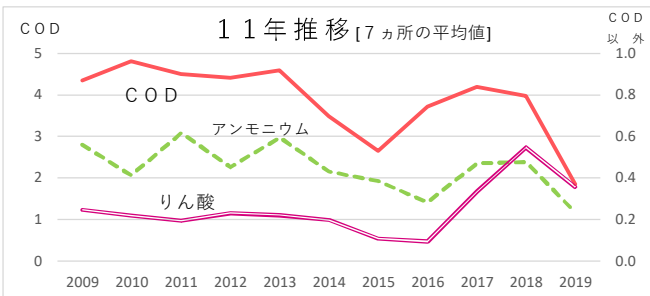
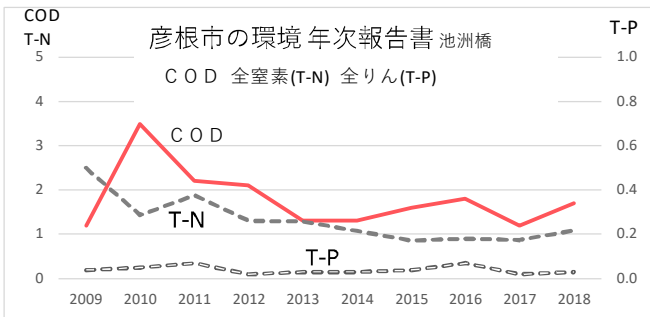
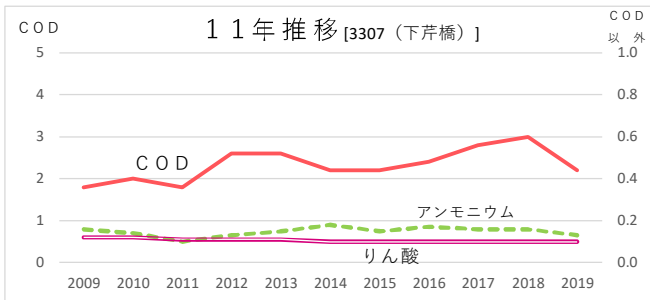
・1949年軍政指令により、マラリア防遏で堀の大規模な埋立が実施された最初の場所で、暗渠や用水路、空堀などの形で現在もその跡をとどめている。

中荻川(水路[芹川北]) 全長約2km

芹橋北側から芹川沿いに河口までの河川

(4) 芹 川

河口付近		と 4～7カ所の平均			
	範囲[mg/l]	C O D	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
汚い	8以上		2以上		
	5～8未満		1～2未満		
	3～5未満		0.4～1未満		
	2～3未満		0.2～0.4未満		
きれい	2未満		0.2未満		



本流は、CODが7～8月少し高くなる程度ですが、支流は大きく変化しています。

芹 川

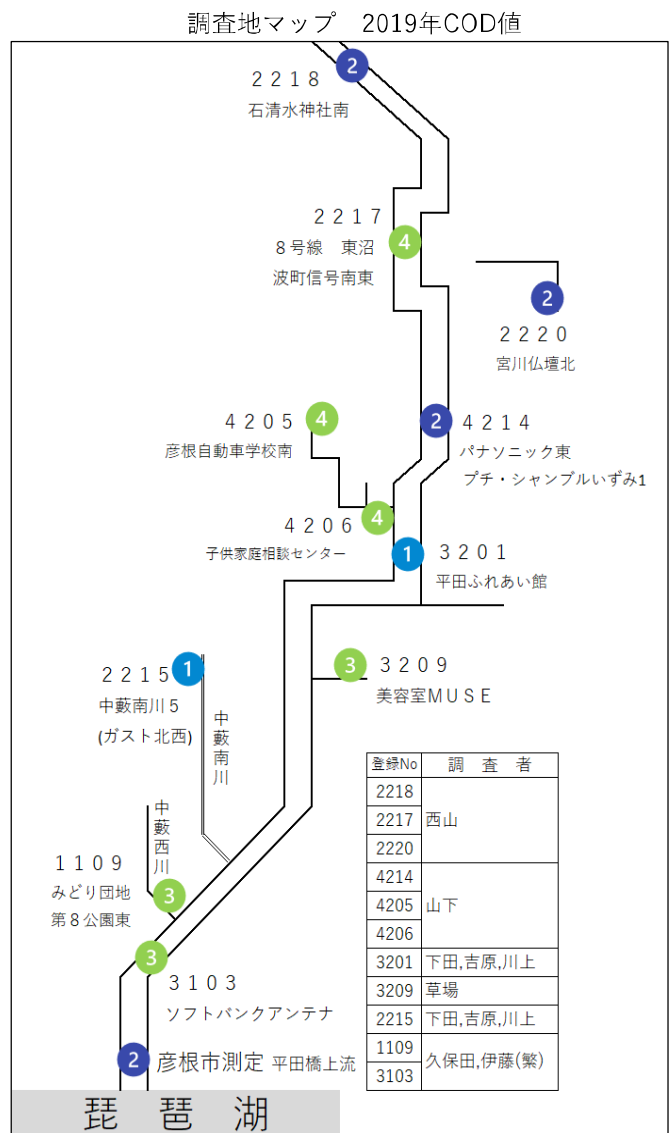
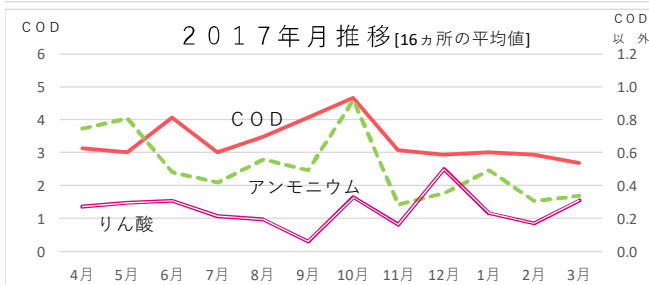
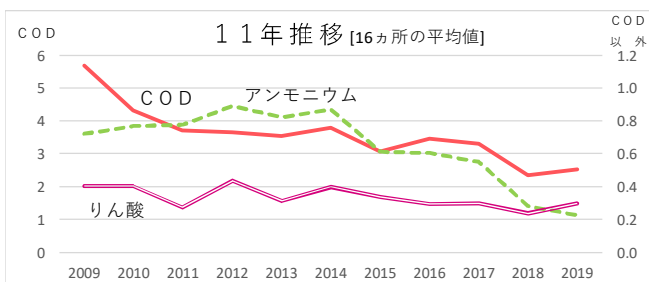
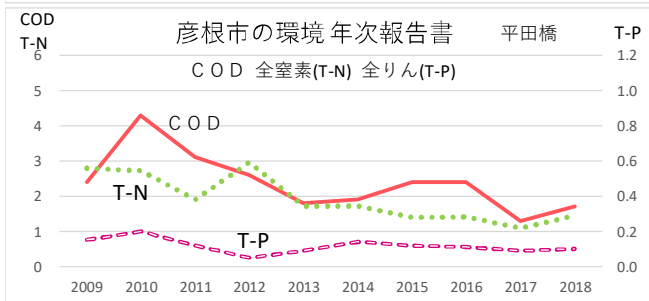
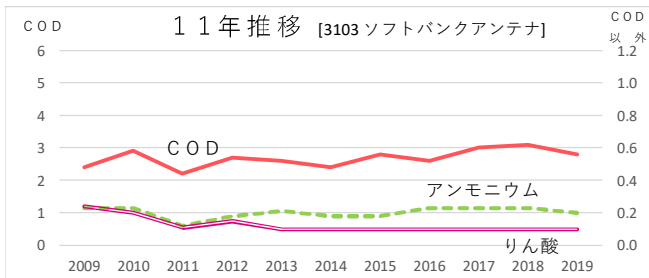
全長約2.2kmで彦根市内約5.7km

彦根城の築城計画(1603年頃)で、当時世利川(芹川)は松原内湖への流れを猿尾付近(七曲がりの仏壇街北側)から琵琶湖に直進させ、三重の堀を切る大規模な工事をした。その際護岸のためにエノキ、ケヤキ、桜など500本以上植えられ、鈴鹿山脈北端の霊仙山を水源とする芹川(善利川)が地区内を貫通している。大堀橋付近では、大堀山と亀甲山が向き、水量が少なく伏流する地域である為井堰[いせき]や野井戸、溜池で確保したが、芹川ダムが1956年に出来水不足は解消。小鮎の釣り人が多く来られます。ひこね万灯流しでは、8月初旬に約千個の灯籠が美しく映え、幻想的な風情が漂い、不知哉川(いざや川)

万葉集 淡海路の鳥籠の山なる不知哉川・・・、狗上の 鳥籠の山なる不知哉川・・・と詠まれ不知哉川は芹川の説が有。

(5) 平 田 川 (ひらたかわ)

河川付近		と 16カ所の平均	
範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム
8以上		2以上	
5~8未満		1~2未満	
3~5未満		0.4~1未満	
2~3未満		0.2~0.4未満	
2未満		0.2未満	



平田川 全長約5.6km、流域面積約4km²

1965年に一級河川に指定され、大堀町河原端付近で芹川の伏流水を源としています。飛鳥時代に、藤原不比等が近江国の太守として大規模の治水をした。芹川の流れを大堀山の北より南側に変えた。現在では、豪雨時に洪水調整の役割の田畑が宅地化され度々洪水があり、1987年に河川改良事業下流から平田町八ノ坪の落差堤まで行われた。上流の方での河川名は、東沼波井[ひがしのなみゆ]と言われていた。

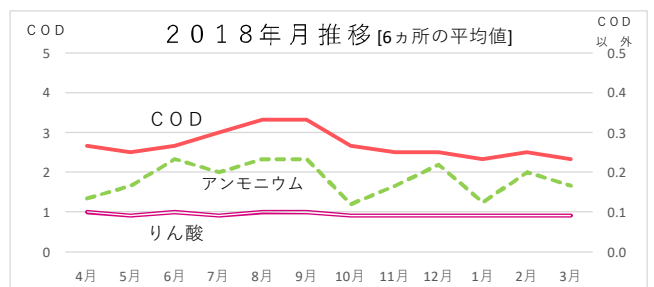
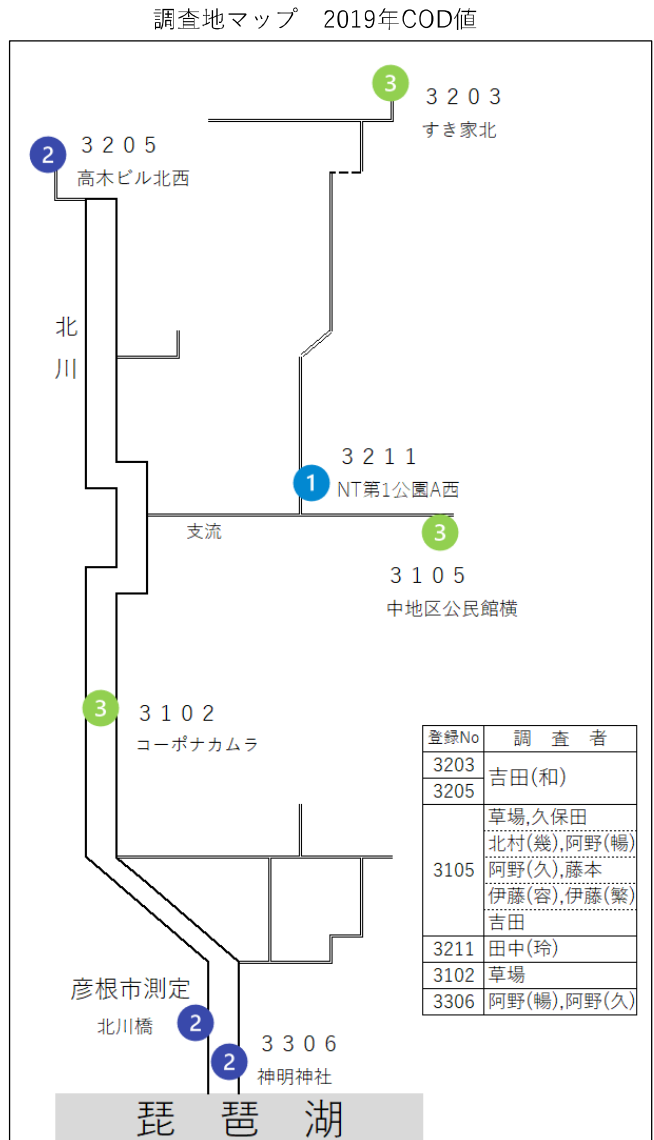
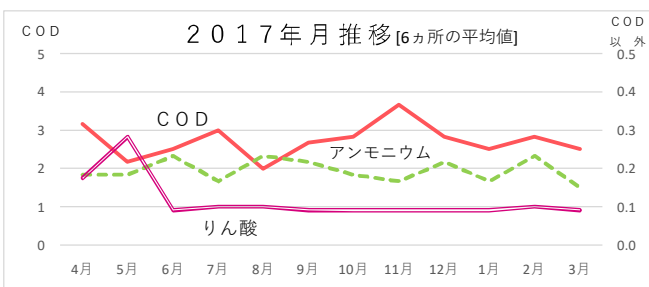
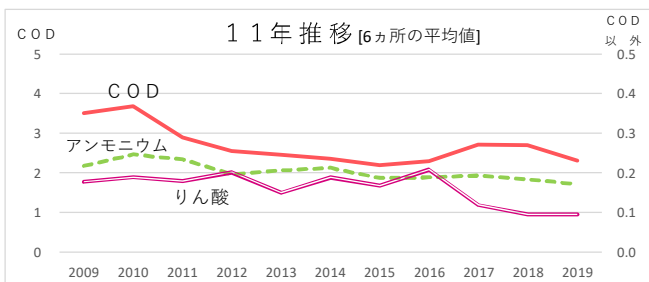
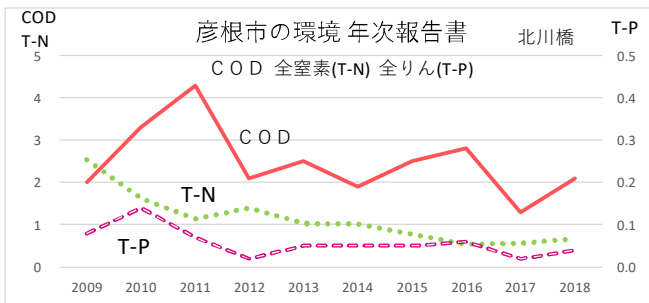
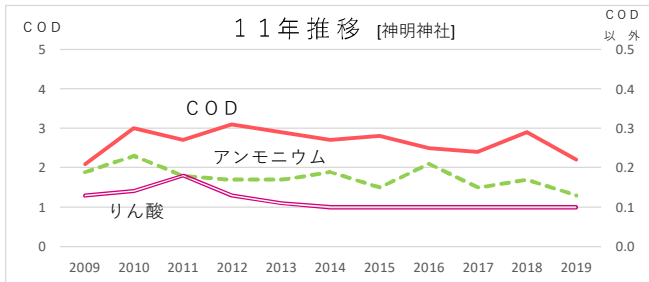
平田川桜の通り抜け

河川改修後、河川沿いは雑草が繁茂するようになり、そこで地元の有志により平成12年のミレニアム2000年を記念に「平田川沿いに桜の通り抜けを作る会」を結成され、400mの南岸に八重桜20種・70本、北岸に八重桜5種50本の植栽されました。桜の見頃は、多くの品種があるので長い期間花見ができます。また、俳句も掲示されていますので読んで皆さんも一句どうですか。

平田川を美しくする会 平田川クリーン大作戦を定期的実施 2019年11月で10回となりみなさんの参加をお願いします。

(6) 北 川

河口付近		と 6カ所の平均			
汚い	範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
	8以上		2以上		
	5～8未満		1～2未満		
	3～5未満		0.4～1未満		
	2～3未満		0.2～0.4未満		
きれい	2未満		0.2未満		



北川 全長約1.5km (暗渠部除く)

北川はその流域がかって田畑で、平田川から取水し給水の役割をしていた。上流域には条里制の跡があり、里道(リヤカー道)の名残がある。

昭和45年(1970)ごろから宅地造成がされ市街地化し、約1kmは暗渠になっている。

湧水(ゆうすい)

地下水が地表に自然に出てきたもののことである。彦根では「しょうず」と呼ばれることが多い。

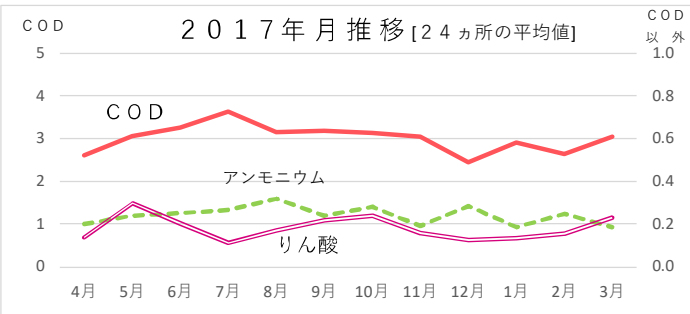
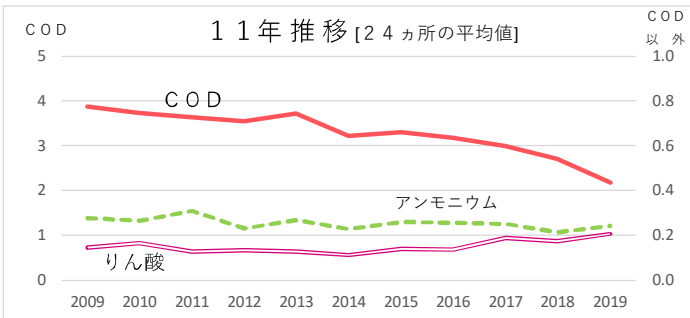
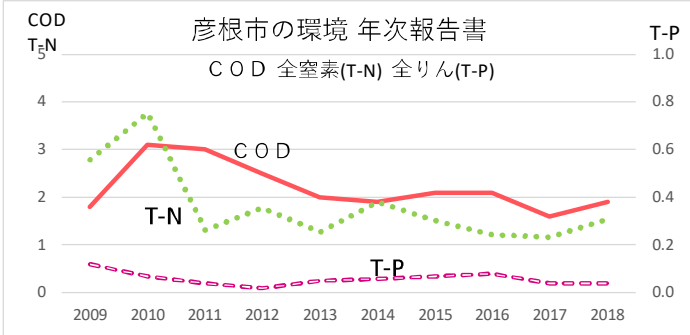
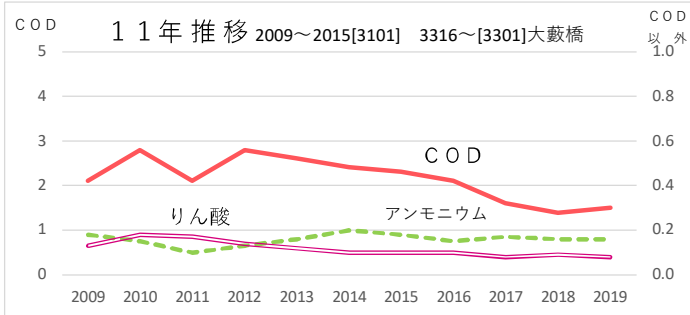
伏流水(ふくりゅうすい)

河川の水が地中に浸透して地下水としてながれること。荒い砂を含んだ浅い層を流れる水の多い。

(7) 野瀬川

河口付近  と 24カ所の平均 

範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
汚い	8以上	2以上		
	5～8未満	1～2未満		
	3～5未満	0.4～1未満		
	2～3未満	0.2～0.4未満		
きれい	2未満	0.2未満		

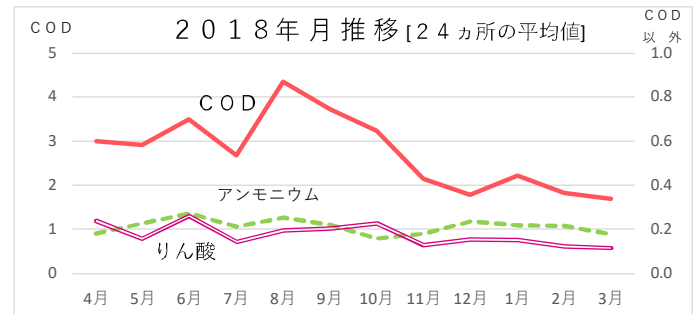
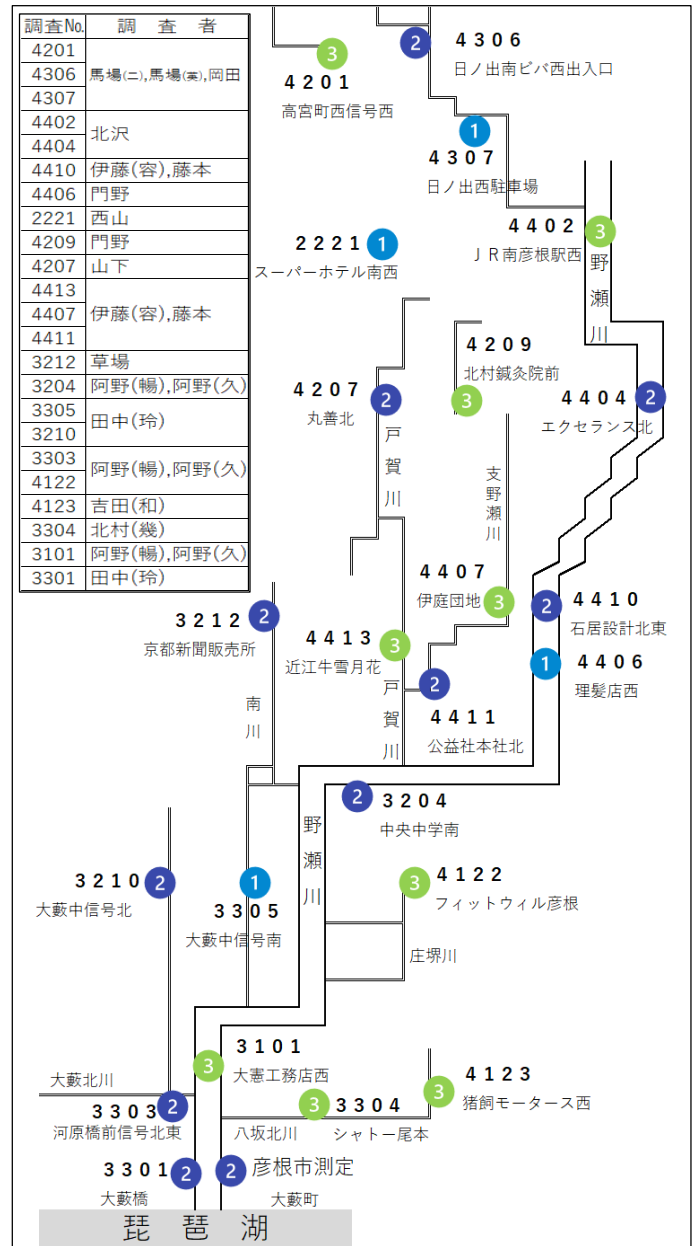


野瀬川 全長約4.5km

彦根市南部の水田地帯を流れる小河川。竹ヶ鼻町の犬上川右岸付近から北西に流れ、大藪町の南で琵琶湖に注ぐ。犬上川水系の地下水・伏流水を水源とし、主に水田余水の排水路としての機能を果たしています。

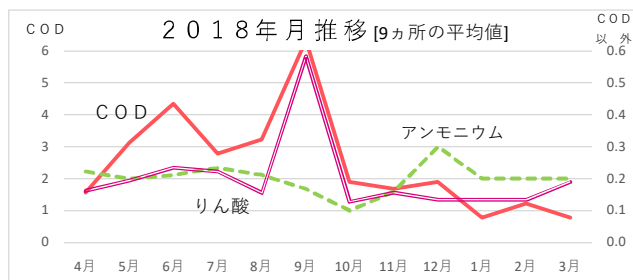
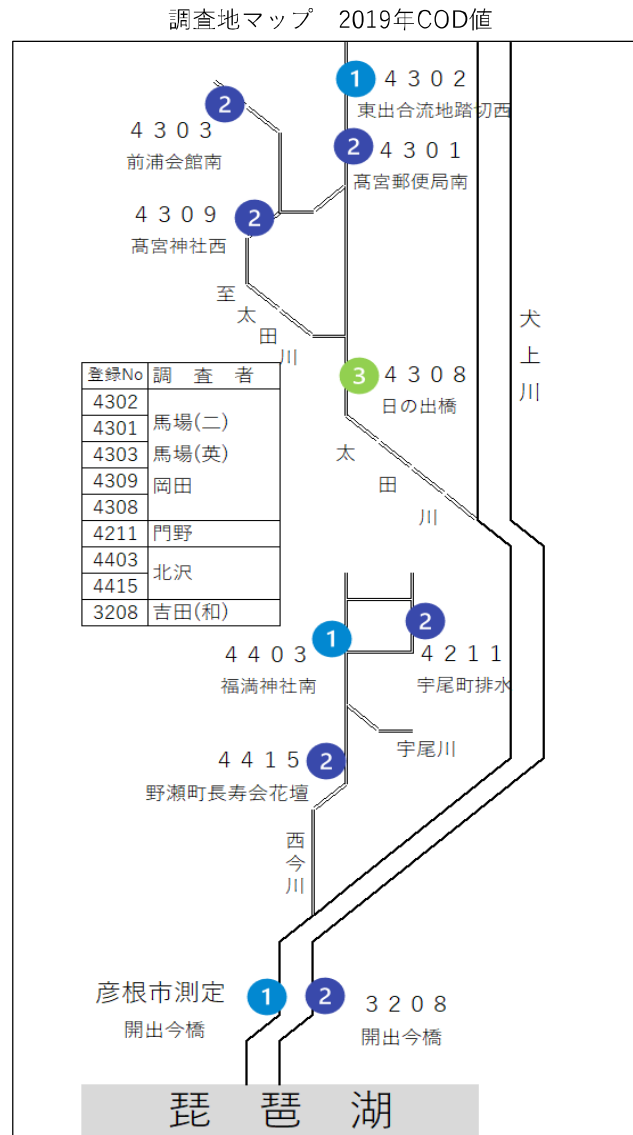
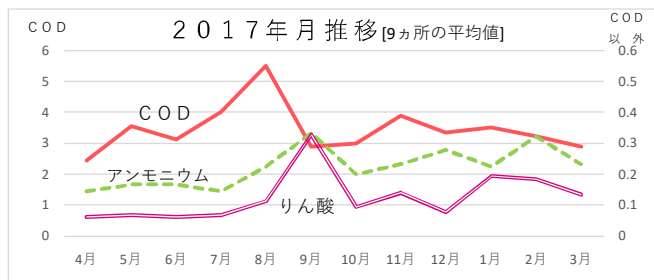
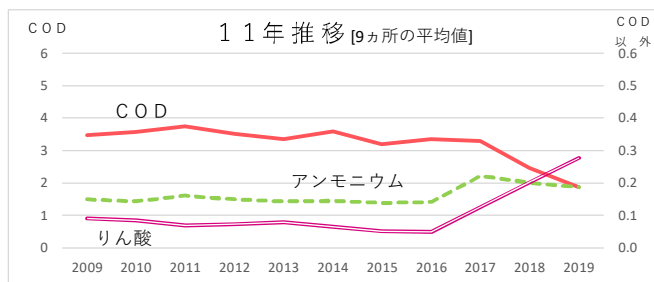
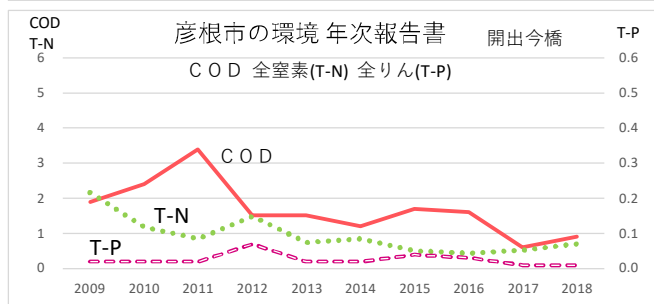
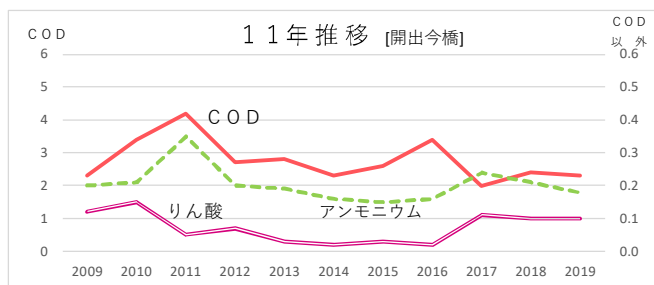
関連河川 八坂北川・大藪北川・庄塚川・南川(平田大沢川)・戸賀川・支野瀬川(青雲川)・久保田川

調査地マップ 2019年COD値



(8) 犬上川

河口付近		と 9カ所の平均		
汚い	COD	アンモニウム	りん酸	
8以上		2以上		
5～8未満		1～2未満		
3～5未満		0.4～1未満		
2～3未満		0.2～0.4未満		
きれい	2未満	0.2未満		



犬上川 全長約25km、流域面積約110km²

北谷川と南谷川の二つの源流がある。北谷川の源流は三重県との県境、鈴鹿山系の御池(おいけ)岳と三国岳の中間の鞍部にある。一方、南谷川は東近江市の角井(かくい)峠に水源を持つ。水源になる山地が比較的浅く急で石灰岩質のため保水力に乏しく、少し干天が続くと水量が激減する。

犬上ダム

水争いの根本解決策として、1946年に多賀町萱原に高さ45m、幅135mが完成 農業用水専用のコンクリートダム日本初。

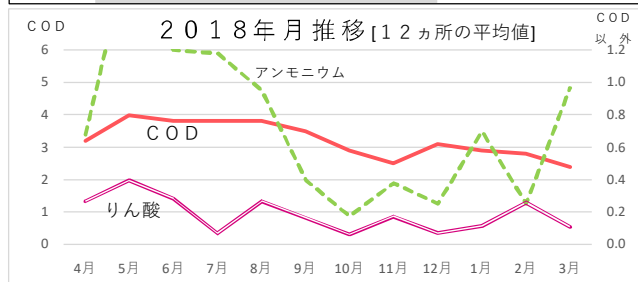
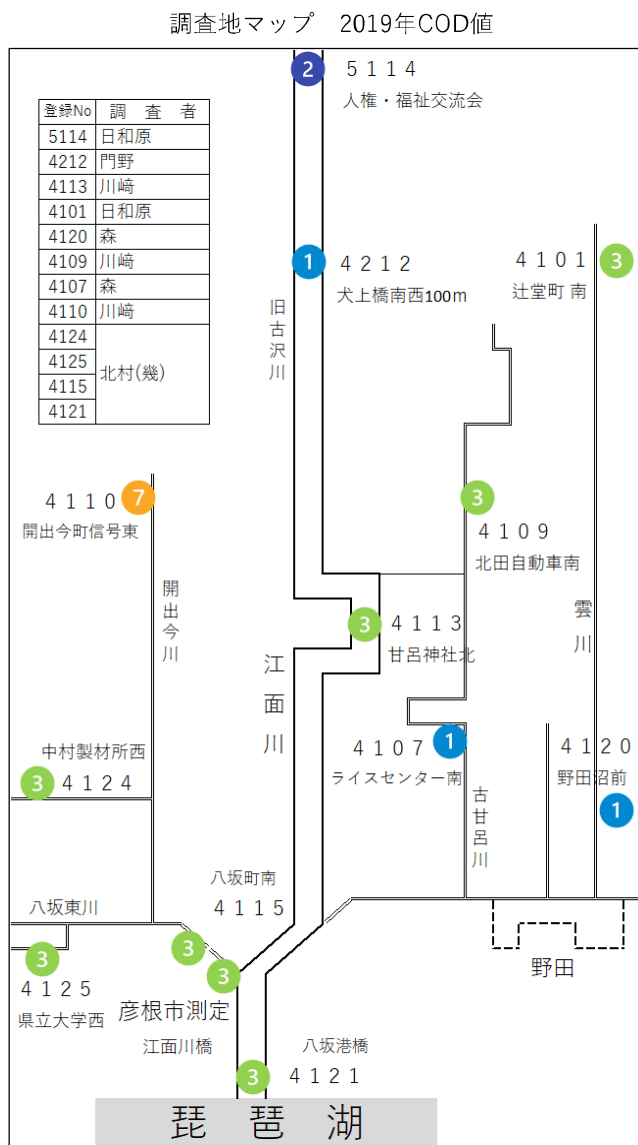
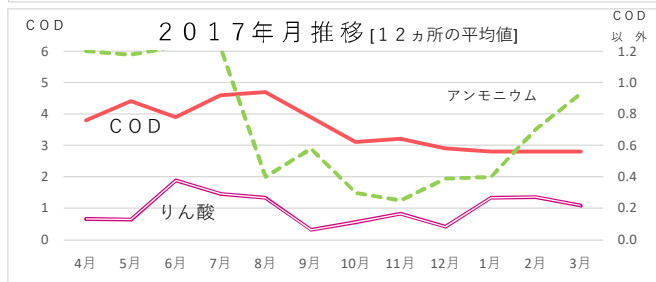
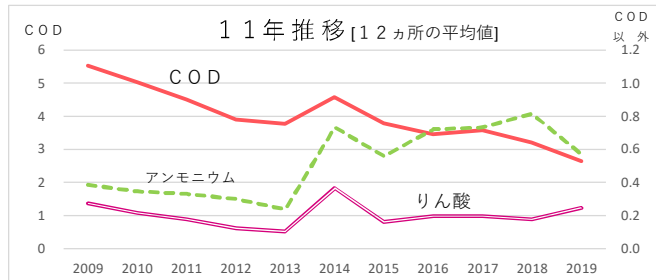
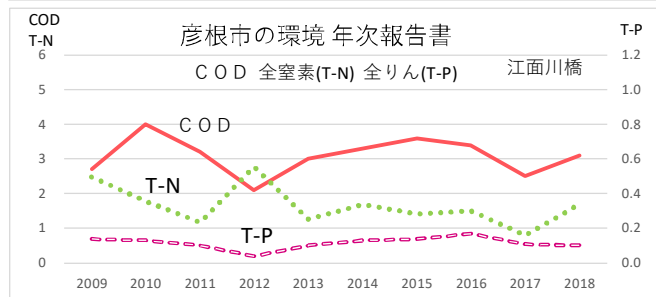
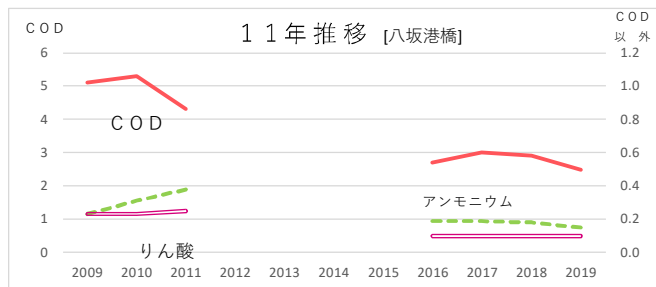
十王村の水

西今町の朝鮮人街道に、周囲を石の柵で囲まれた五角形の池がある。犬上川の伏流水であり今でも名水として愛好されている。江戸時代でも名水で、大干ばつでも湧き水が絶えることがないと紹介されている。現在は、駐車場を設け多くの方が汲みに来られている。

(9) 江 面 川 (えづらがわ) 旧北川

河口付近 ■ と 12カ所の平均 ▨

範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
汚い 8以上		2以上		
5~8未満		1~2未満		
3~5未満		0.4~1未満		
2~3未満		0.2~0.4未満		
きれい 2未満		0.2未満		



江面川 全長約4.2km

明治では、開出今を流れる河川を大井と呼ばれ、甘呂町を流れる河川を北川、上流を古沢川、日夏の安田公民館付近では安田川、上流を蓮台寺川と言われていた。

安食川より一部、野田沼に流れ込み江面川経由で琵琶湖に流れています。

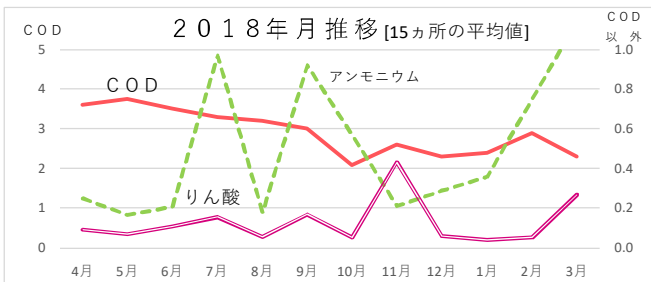
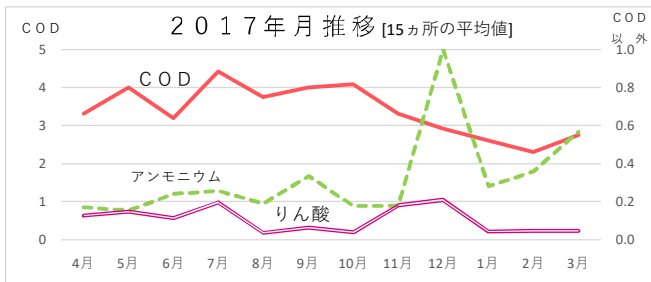
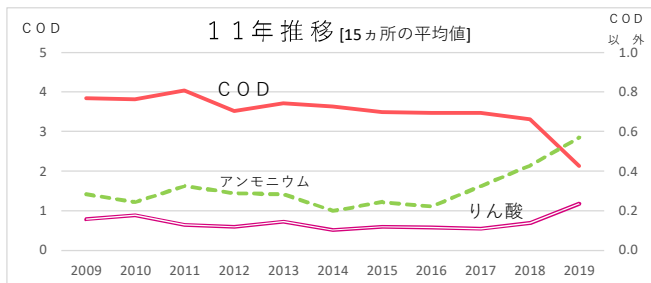
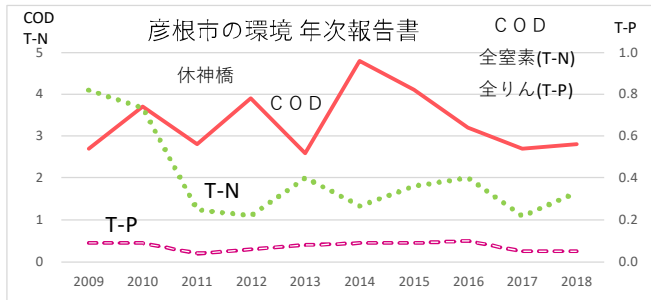
関連河川 今川・八坂東川(八坂川)・開出今川・古甘呂川・堀川・雲川

(10) 安食川

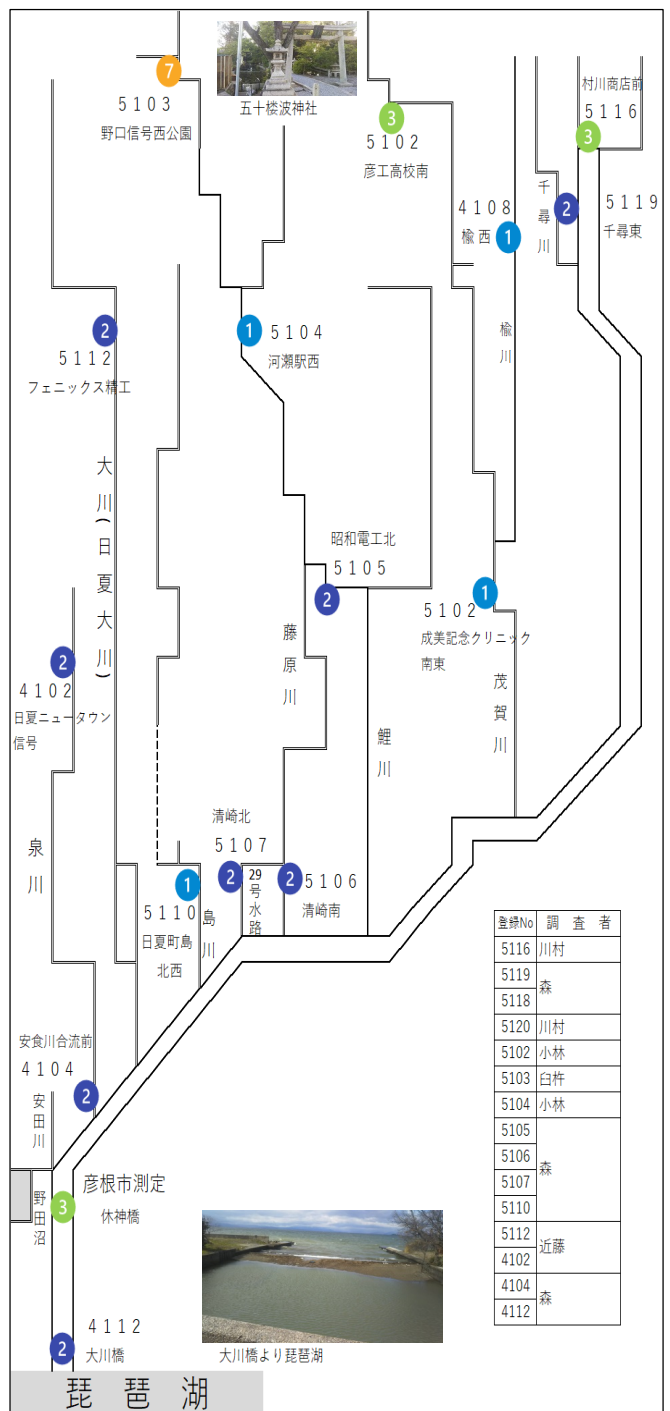
15カ所の平均

汚い	COD	アンモニウム	りん酸
8以上	2以上		
5~8未満	1~2未満		
3~5未満	0.4~1未満		
2~3未満	0.2~0.4未満		
2未満	0.2未満		

※ 河口付近の表示は、測定が少ない為未表示



調査地マップ 2019年COD値



安食川

市内全長約 6.2km

安食川が改修されるまでは、明治時代、日夏 泉川上流を極楽寺川、日夏の南では、天神堂川上流を北流レ川、河瀬から清崎の南の河川を駒之沢川、茂賀町四ヶ村川、安食町から賀田山町小田部までを安食川であったが、台風で宇曾川が氾濫したことから、昭和40年頃改修され直接琵琶湖に注ぐ事になりました。野田沼付近以外河川沿いに上流まで散策が可能である。河口の大川橋は、すぐに砂が溜まり琵琶湖に注げず、野田沼から江面川に流れていると思われる。

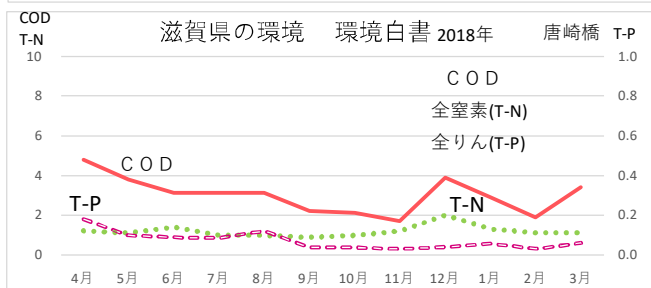
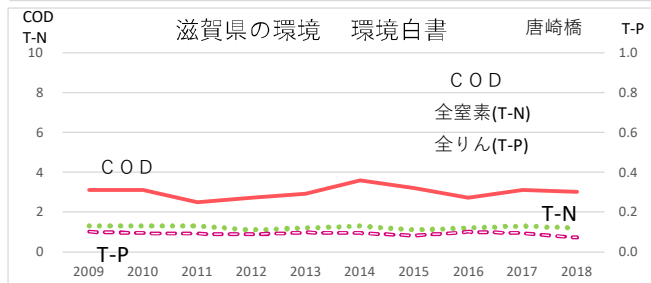
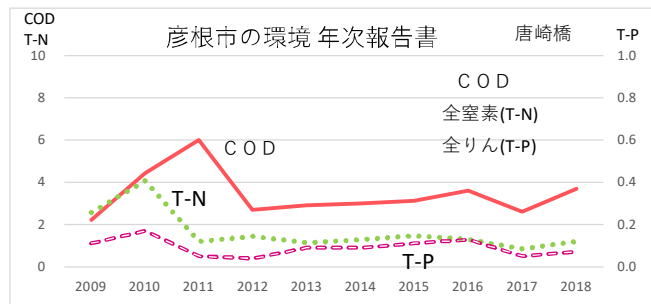
五十楼波神社

河瀬駅より南東約20分にある。通称弁天さんと親しまれている。天明4年(1784)頃に、大飢饉で村が疲弊したときに、竹生島から勧請(神仏の分霊を他の場所に移しまつこと。)したと伝えるが、湧水の流れに囲まれた中島状の区画に祀られており、それ以前から水の神が祭祀されていた可能性もある。案内板もなく湧水が見えないがUの池で神秘的。

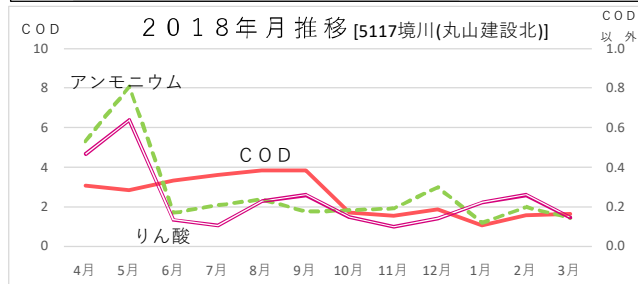
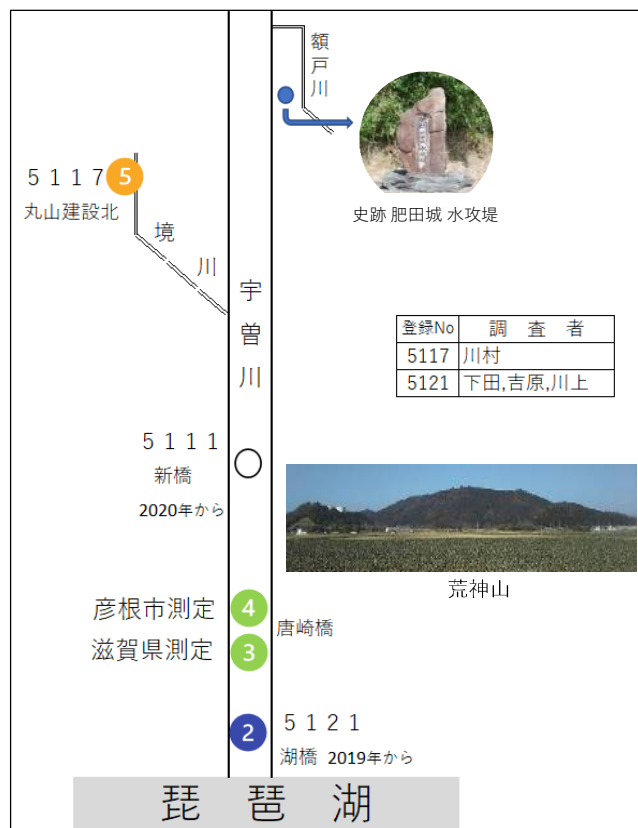
関連河川 安田川(五僧田川)・森堂川・泉川・妙楽寺川・大川(日夏大川)・島川・藤原川(清崎川)・鯉川・茂賀川・小田部川・楡川・千尋川(坊主川)

(11) 宇 曾 川

彦根市環境 年次報告書			滋賀県の環境		
範 囲 (mg/l)	COD	全窒素(T-N)	範 囲 (mg/l)	全りん(T-P)	
汚い	8以上		2以上		
	5~8未満		1~2未満		
	3~5未満		0.4~1未満		
	2~3未満		0.2~0.4未満		
きれい	2未満		0.2未満		



調査地マップ 2019年COD値[市・県は2018年]



宇曾川 流長 宇曾川ダムより河口まで約22km(ダムより上流は約4km)、流域面積は約65km²。
 鈴鹿山脈の押立山(おしたてやま)の東部、愛知郡秦荘町の東端の山中を源流とし、大雨のたびに氾濫をくり返し、昭和28年頃から河川改修工事が継続的に進められてきた。宇曾川治水ダムも、その一環であった。田植え時期になると上流より濁った水に変貌し琵琶湖に注いでいます。河川沿いに道路があり河口から約24km車で走行可能です。滋賀県2018年測定の透明度より、4月=0.15m,5月=0.41m,12月=0.68m,1月=0.51mで他の月は1m以上でした。

宇曾川の名前の由来

織田信長軍による金剛輪寺焼き打ち前に、住職が高台で火を燃やし、寺が焼けたと見せかけたことから寺の麓から流れる川を宇曾川と名付けたとか、江戸時代歌詠橋(豊郷町)から下流の宇曾川には、舟連が栄えていたことから「運漕川」とも言われている。また、上流に向かい、一泊して戻ろうとしたら水が無くウソ川と言う話もある。

肥田城の水攻

彦根市肥田町には、戦国時代六角高頼が肥田城を大軍をもってしても容易におちないため、水攻めをはかった。城の周囲約6.3kmに及ぶ堤を築きて宇曾川を止め、愛知川他の水を集めたという。城の約4km四方は、大海のようになり、肥田城は水没の寸前だったが、豪雨で堤が崩れ失敗となる。氾濫をくり返す「暴れ川」が、肥田城を救ったのであった。聖泉大学の北側に石碑「史跡 肥田城 水攻堤」がある。

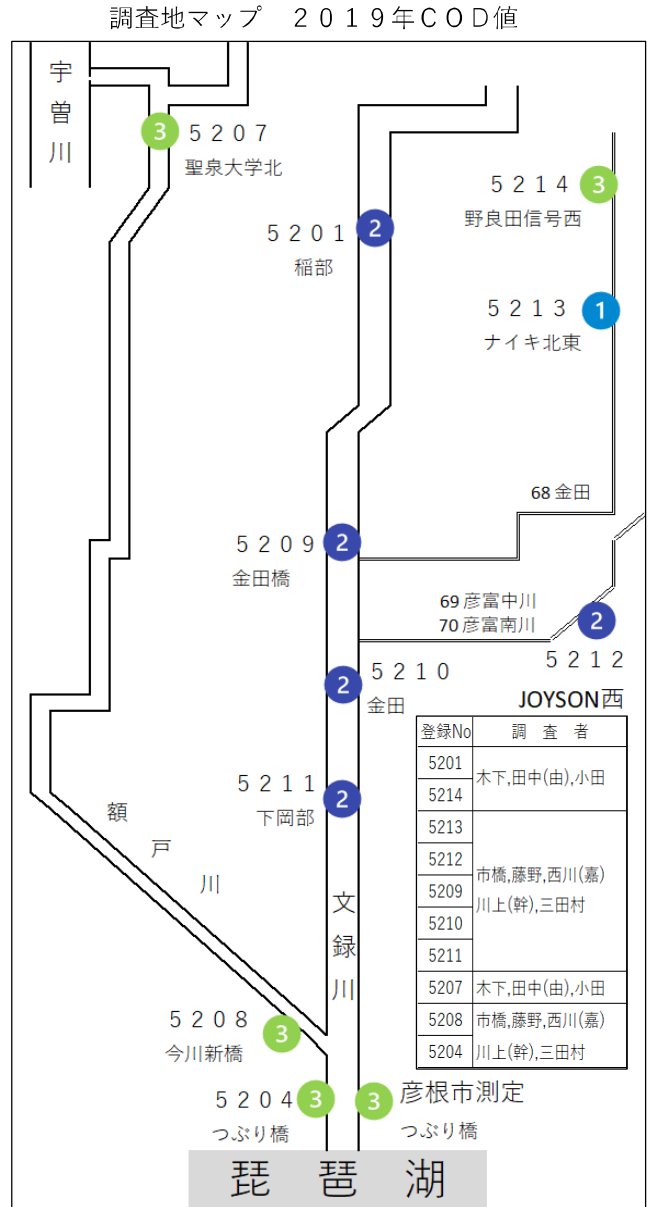
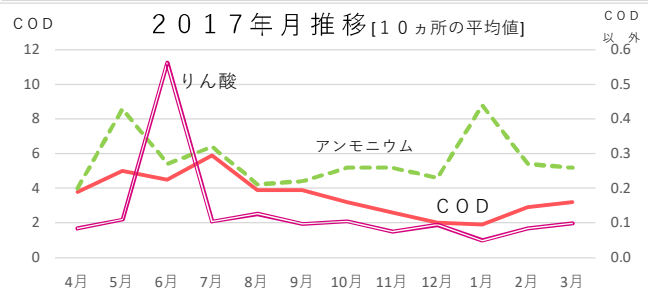
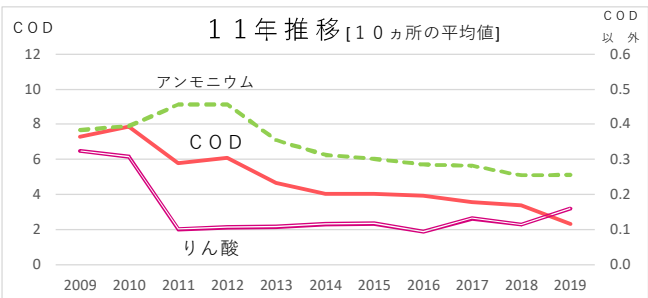
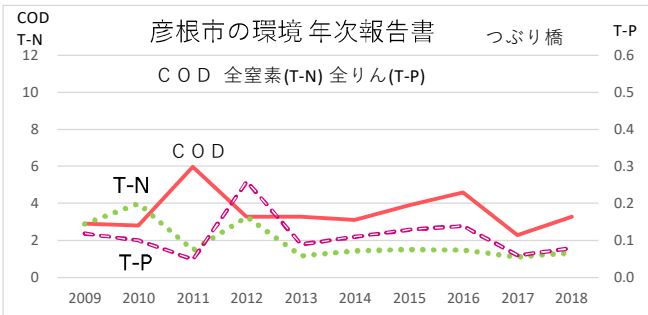
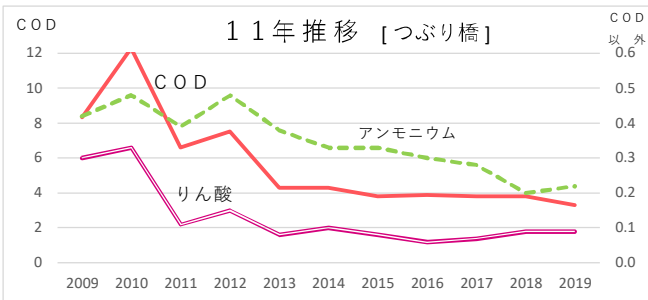
荒神山(284.1m)、荒神山古墳、荒神山公園、子どもセンター、荒神山自然の家

山上には、火と竜(かまど)の神・祓え神の荒神山神社、県2番目に大きい全長124mの3段前方後円墳、3基のテレビ中継局。麓には、最終処理場の跡地に、幼児から高齢者まで利用できる遊具広場や競技施設がある公園や、乳幼児から18歳の子どもたちを支援する子どもセンター、団体での宿泊や体験活動ができる自然の家がある。

(12) 文 録 川

(文録川) [旧今川]

河口付近		と 10ヵ所の平均	
範囲[mg/l]	COD	範囲[mg/l]	アンモニウム
汚い	8以上	2以上	
	5~8未満	1~2未満	
	3~5未満	0.4~1未満	
	2~3未満	0.2~0.4未満	
きれい	2未満	0.2未満	



文録川 (文録川) [旧今川] 市内全長約 6 km

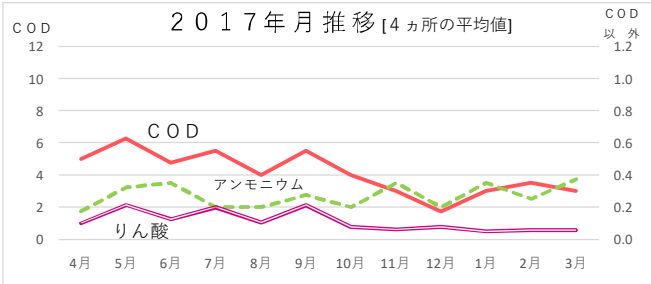
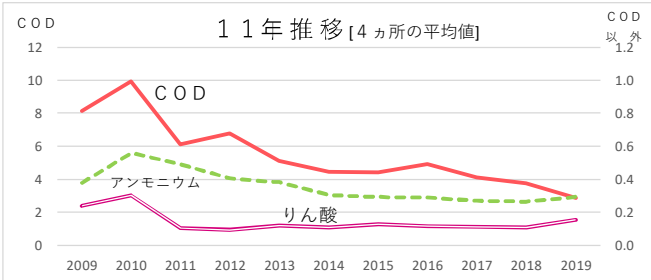
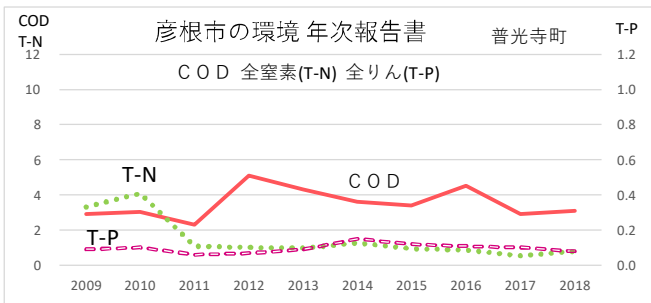
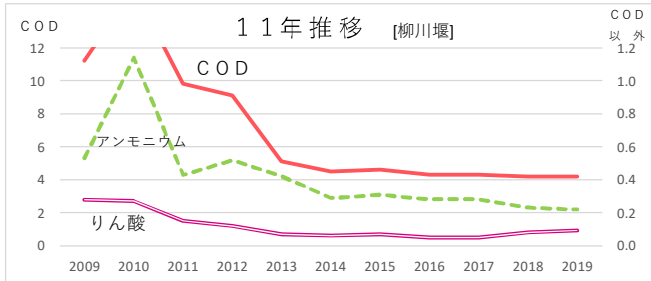
彦根市南部の水田地帯を流れる河川。野良田町あるいは愛知川町河原付近に始まり北西に流れ石寺付近で琵琶湖に流れている流長約 6.5 km 「愛智郡志」は、「豊臣氏が文録年中に開削したことに因る」としているが、原型ははるか以前にさかのぼる。場所により文録川、今川と表記されている。

額戸川 (顔戸川) 市内全長約 6.7 km

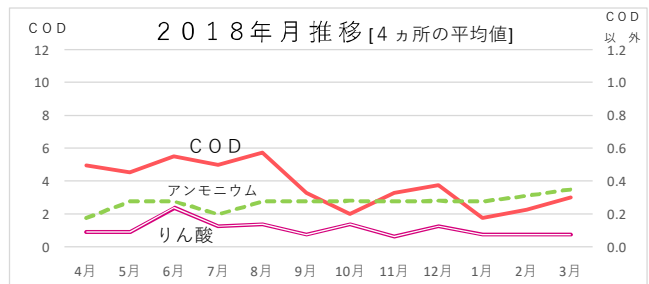
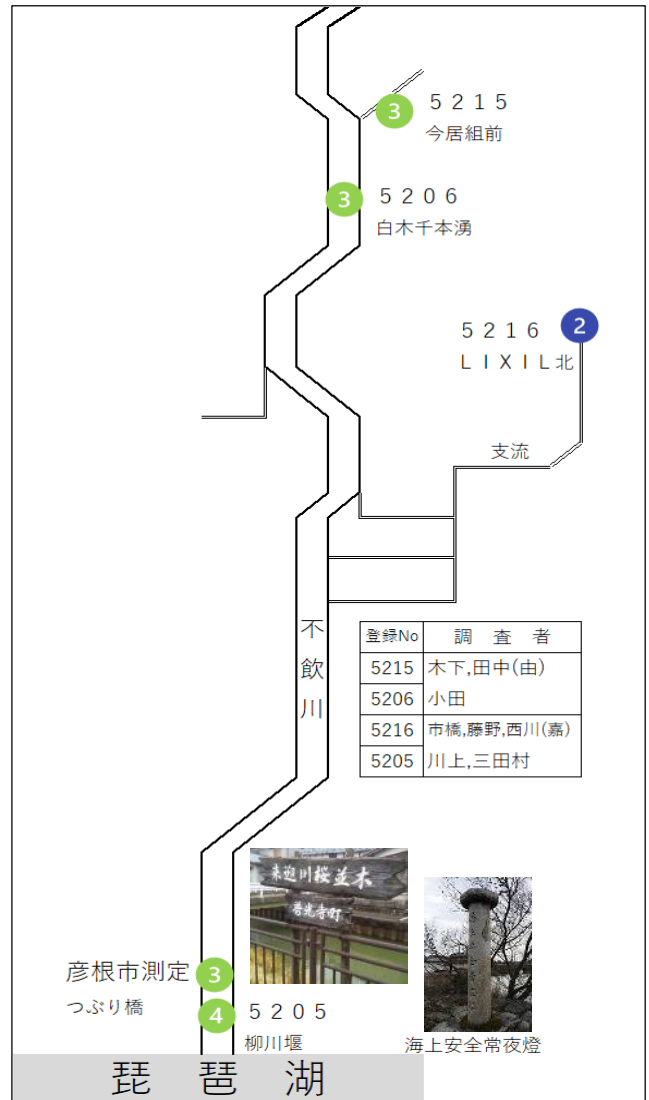
文録川が琵琶湖に流れる少し前に合流している。宇曾川より一部取込みされています。上流付近は寺井と言われていた。場所により顔戸川と表記されている。

(13) 不 飲 川 (のますがわ)

河口付近		と 4 ヵ所の平均			
汚い	範囲[mg/l]	C O D	範囲[mg/l]	アンモニウム	りん酸
	8以上		2以上		
	5～8未満		1～2未満		
	3～5未満		0.4～1未満		
	2～3未満		0.2～0.4未満		
きれい	2未満		0.2未満		



調査地マップ 2019年COD値



不飲川 市内全長約5.6 km

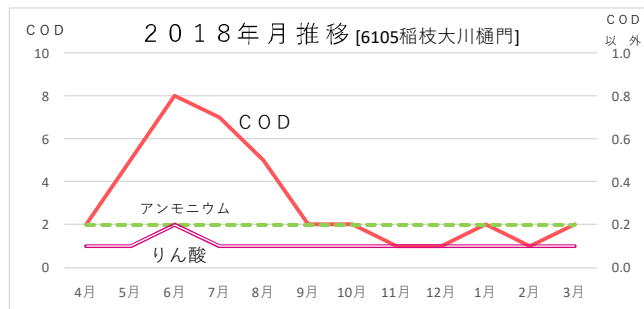
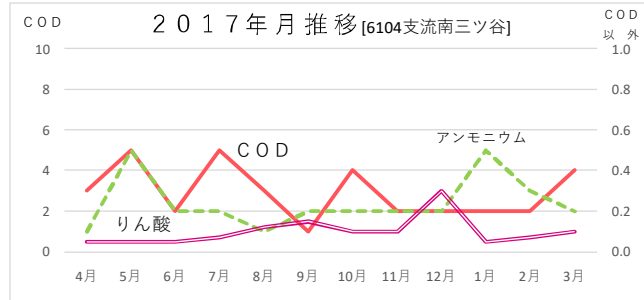
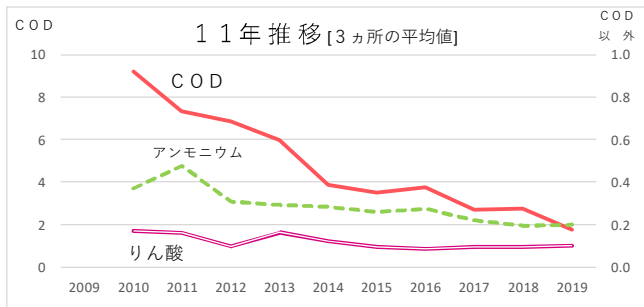
このいわくありげな名称は、水源である不飲池に由来する。俗説によると、昔この池に激戦で池水に血が流れ込み忌み嫌ってとか、平将門が身の汚れを洗い流したため更に、毒ガスが湧き出て飲まなくなったとかと言われている。大正頃まで水が豊かに出ていたという。愛知川町内では不飲川、彦根市内では来向川(来迎川)と呼び分けられていたようである。普光寺町では、来迎川桜並木通りがあります。元々、不飲川と来向(来迎)川があり、井伊直弼により結びつける通船水路を開削した。

柳川港

明治維新(1853年)以降柳川港では来迎川(不飲川)に防波堤や棧橋の整備が行われ、港が活況を呈するようになった。その後、陸上交通が発達し衰微の一途をたどり古い防波堤に海上安全常夜燈の石柱と、石積の見張小屋が昔の面影をわずかにとどめている。柳川の住民には、遠く北海道に雄飛し、松前交易に従事する者が多く出た。町内の大宮神社の本殿前には、松前航路用帆船の絵馬が納められている。

(14) 三ツ谷川・愛知川・田附川・新海川・新海浜川

三ツ谷川(旧大川)

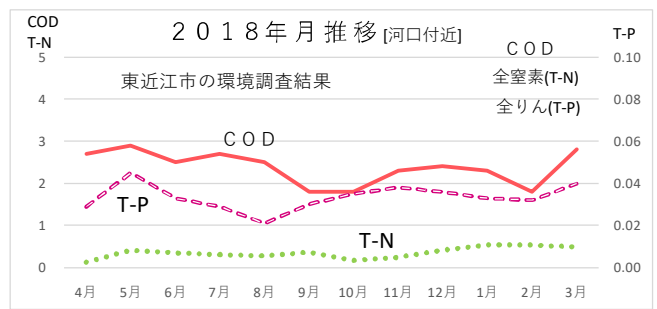
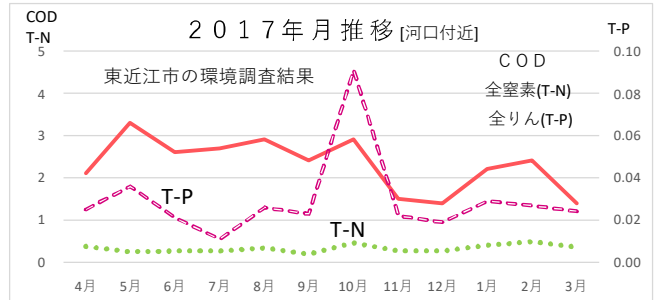
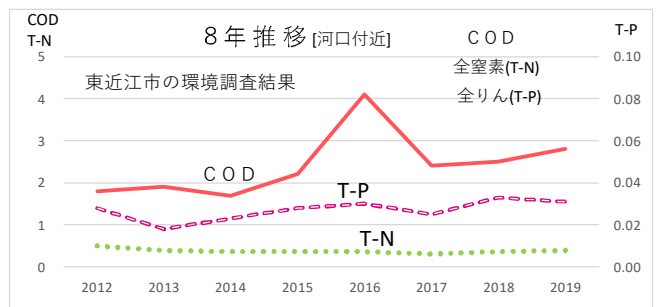


りん酸：10,12,2月は未測定の為前後の平均値

三ツ谷川 全長約6.4km

服部町からの河川で上流は底樋井と言われていました。

愛知川

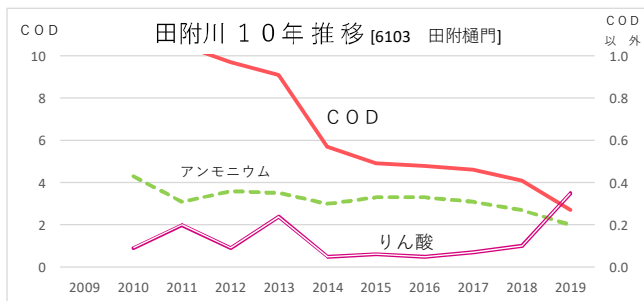


引用：東近江市ホームページ：河川水質調査の結果より

愛知川

上流には、農業用水の供給と発電が目的の利水専用の
永源寺ダムがあります。(洪水調節機能はない)

田附川・新海川・新海浜川



田附川(旧新海新川)は、田附町からの川です。全長約1.9km

CODは大きく下がり、アンモニウムは少し下がりましたが、
りん酸が少し上がりました。

新海川は、新海町からの河川です。全長約1.1km

新海浜川は、新海浜町からの河川です。全長約0.7km

調査地マップ 2019年COD値

